

# HAPPY新聞 No.2



発行 社団 法人 日本新聞協会  
〒100-8543 東京都千代田区内幸町2-2-1  
日本プレスセンタービル7階  
電話:03-3591-4407  
<http://www.readme-press.com>

4 月6日は「新聞を聞かせる協会はこの日に合わせて「HAPPY NEWS 2005」の結果を発表します。新聞を読んで心があたたかくなったり、勇気がふつとわいてきたりするようなうれしい記事を切り抜き、その理由を添えて応募してもらひこのキャンペーンは、今回で2回目を迎えました。世界の出来事から地域のニュースまで、2005年度の新聞から見つけていただいた HAPPYな記事は、8262点。前年度の倍以上の大応募数です。さらに今年度は、高校生以下の方を対象に HAPPY NEWS YOUNGを新設。全国から元気なニュース

ース、かわいいコメントがたくさん集まりました。審査委員たちは、より多くの人々にあわせな気持ちを伝えてくれるコメントを探して、作品を選考しました。そして2005年度のHAPPY NEWS 計11点を決定したほか、新聞を通して読者にやさしい気持ちやうれしい気分を届けてくれた人物をHAPPY NEWS PERSONとして選びました。

新聞は、読者の皆さんに事件や事故のニュースだけでなく、HAPPYも運んでいます。キャンペーンは2006年度も実施します。さあ、あなたもいますぐ新聞からしあわせな記事を探してみてください。



# HAPPY NEWS大賞

## ごみ出しまかせて



# 足不自由な「なじみ」のおばちゃん

ごみ出し  
まかせて

富来中・奥下君が善意の“早起き”

見ゆる高来中学校一年生 奥  
下野一君(二)は足が不自由な  
近所の年配女性を意識し、春人  
奥下君は月曜と木曜の週一  
回、懲るるみ収集の日、川  
口菊子さん(七)に向かう。  
「僕の足でタッピング  
すれば十秒」。午前六時半に  
起き、顔を洗うより先に走  
り起きたら又寝をするだけか  
きつかけは、ある雨の日に「楽しめ」と日々を過す。手  
見た光景だった。川口さんが「紙も箱も『宝物です』と大事  
にしまってある。奥下君も幼  
い頃からおもひでして、どける  
祖母美治さん、父達一さ  
くそれが欲して、どける  
「云ふから代わりに云み出しせ  
続いている。

奥下君は月曜と木曜の週一  
回、懲るるみ収集の日、川  
口菊子さん(七)に向かう。  
二十円の箋子が並ぶ駄菓子屋  
から緩やかな坂を上って百  
メートルほど。「僕の足でタッピ  
ングすれば十秒」。午前六時半に  
起き、顔を洗うより先に走  
り起きたら又寝をするだけか  
きつかけは、ある雨の日に「楽しめ」と日々を過す。手  
見た光景だった。川口さんが「紙も箱も『宝物です』と大事  
にしまってある。奥下君も幼  
い頃からおもひでして、どける  
祖母美治さん、父達一さ  
くそれが欲して、どける  
「云ふから代わりに云み出しせ  
続いている。

奥下君は月曜と木曜の週一  
回、懲るるみ収集の日、川  
口菊子さん(七)に向かう。  
二十円の箋子が並ぶ駄菓子屋  
から緩やかな坂を上って百  
メートルほど。「僕の足でタッピ  
ングすれば十秒」。午前六時半に  
起き、顔を洗うより先に走  
り起きたら又寝をするだけか  
きつかけは、ある雨の日に「楽しめ」と日々を過す。手  
見た光景だった。川口さんが「紙も箱も『宝物です』と大事  
にしまってある。奥下君も幼  
い頃からおもひでして、どける  
祖母美治さん、父達一さ  
くそれが欲して、どける  
「云ふから代わりに云み出しせ  
続いている。

奥下君は月曜と木曜の週一  
回、懲るるみ収集の日、川  
口菊子さん(七)に向かう。  
二十円の箋子が並ぶ駄菓子屋  
から緩やかな坂を上って百  
メートルほど。「僕の足でタッピ  
ングすれば十秒」。午前六時半に  
起き、顔を洗うより先に走  
り起きたら又寝をするだけか  
きつかけは、ある雨の日に「楽しめ」と日々を過す。手  
見た光景だった。川口さんが「紙も箱も『宝物です』と大事  
にしまってある。奥下君も幼  
い頃からおもひでして、どける  
祖母美治さん、父達一さ  
くそれが欲して、どける  
「云ふから代わりに云み出しせ  
続いている。

今どき、こんな優しい少年がいるんだ。幼い子どもを狙った度重なる凶悪事件や10代の犯罪行為など、やるせない気持ちでいた私の目に飛び込んできた一つの記事、ひときわ輝いて見えた何度も読み返しました。心に熱いものが込み上げてきました。

顔から実感できます。川口さんは、「ああちんに小遣いあげようといつても「ほく、それが欲しくて、しどるんじゃないげん」と言う。「いつも心の中で手を合わせていいます」と言っています。

自ら進んで、他人に迷惑をかけず、そして代償を求めない。奥下君の思いやりはボランティアの模範だと思います。

▼北陸中日新聞 2005年12月2日付夕刊を読んで  
石田修さん（石川県）

(志賀町立富来中学校) 奥下雅士さん

PP  
NEWS  
PERSON  
2005





